

井戸端だより

第56号

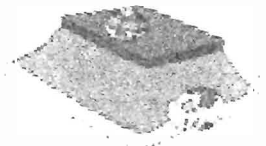
発行日： 2006.12.27

発行： ぐらしの学習会

安倍政権が発足して3か月、教育基本法の改悪など強引に進めていく手腕の
みが目立ちます。美しい国は、何とも危なっかしい土台の上に立っているよう
です。さて、井戸端だより 56号を送りいたします。読んで何かを感じていた
だければ幸いです。それでは、皆様、よいお年をお迎えください。

目 次

- | | |
|---------------------|-------------|
| ・10月・11月・12月例会報告 | P.2 |
| ・ぐらしの学習会規約 | P.3 |
| ・文化協会って（文化祭に思うこと） | P.4 |
| ・市議会（新聞切り抜き） | P.5 |
| ・新聞切り抜き（芸術・芸能話題相次ぐ） | P.6 |
| ・新聞切り抜き（プラごみ分別） | P.7 |
| ・阿部 司 講演会に参加して | P.8～ |
| ・水辺を歩く | P.11～ |
| ・雑感 | P.13～ |
| ・お知らせ・編集後記 | P.14 |



10月・11月・12月例会報告

10月例会は、大洲方面へ出かける予定でしたが、林個人の事情により中止させていただきました。実は、その直前に、入院中の夫の母が、危篤になり慌てて名古屋へ駆けつけました。幸い、意識が戻り、私も戻ってこれることができました。その後も何度も、危ない状況があったのですが、奇跡的に快方に向かい、現在安定した状態を保っています。このまま年が越せそうだと喜んでいますが、義母のこのような状態を目の当たりにして、強く心に感じたことがあります。それは義母の子育てはすばらしかったということです。このような状況になって、夫達男3人兄弟は、実に献身的に親の見舞に駆けつけました。みなそれぞれ要職についている身ですから、決して近くない郷里に駆けつけることは容易なことではありません。しかし、義務感からではなく、心からそうしたいという気持ちで行っているのを見るにつけ、自分が同じ状況になったとき、果たしてうちの子供達は同じようにするだろうか・・・否定的にならざるを得ません。義母の子育てはこんなところに実を結んでいるのだと感じるのです。

11月例会は、11月29日（水）午後4時から林宅で行いました。

ジャコウアゲハの葉書の売り上げなどの報告を来年早々行うことになりました。書店に販売依頼してある分の引き取り、各会員に預けてある絵葉書の現状報告などをまとめる予定です。また、郵便局からくらしの学習会として郵便局に持っている口座の使用につき、会規約を提出するように言われていましたので、会の活動を明文化、例会で決定しました。（報告の後に掲載）

12月例会は、松山に家を新築し、今治から引っ越してきた会員のお宅に集まって行いました。そのお宅は、実によく考えられていました。飼っている大型犬の部屋、介護されるようになったときのシステム、ゆったりした間取り、動線を考えた、2回のお風呂に、物干し場、私の固い頭をほぐしてくれるいくつかの驚きを与えてくれました。それにしても新築の家は気持ちがいいものだと思います。かつては新築だった我が家も、はや築17年。光陰矢の如しです。

例会参加者5名、今年活動を振り返り、まとめの会となりました。

(T・H)

くらしの学習会規約

- 第1条 (名称) 本会は、くらしの学習会と称する。
- 第2条 (事務所) 本事務所は、東温市志津川 1199-9 に置く。
- 第3条 (目的) 日々の暮らしの中の疑問・興味・関心事について、学習会を開いたり、意見交換したり、共に行動したりすることを目的とする。
- 第4条 (事業) 本会は、前条の目的を達成するために、必要な活動を行う。
- 第5条 (会員) 本会は、第3条に係わる関係者である活動会員、及び第9条の会報購読者である購読会員をもって会員とする。
- 第6条 (役員) 本会には、次の役員を置く。但し、会計は兼務を妨げない。
1. 代表 1名
 2. 副代表 1名
 3. 会計 1名
- 第7条 (例会) 原則として月1回例会を開くものとする。
- 第8条 (会費) 会員は、年会費を払うものとする。
- | | |
|------|-------|
| 活動会員 | 2000円 |
| 購読会員 | 1000円 |
- 第9条 (会報) 年4回会報を発行する。
- 第10条 (総会) 毎年1月に総会を開き、会計及び年間活動の報告を行い、新年度の活動計画を作成する。
- 第11条 (会計年度) 本会の会計年度は1月から12月までとする。
- 第12条 (補則) 本会の運営に規約改正が必要な場合は、例会で定める。
- 付則 本規約は、平成16年11月30日より施行する。

文化協会って(文化祭に思うこと)

平成 17 年 6 月、東温市文化協会が設立され、現在、10 部門 83 団体が加盟し会員数は 1,638 名を擁するそうです。

私は、今年 5 月にその中の 1 つ、美術創作部門の書道の部へ入会しました。重信地区にある 7 つの書道教室が東温市書道連盟を作り、春の中央公民館ロビー展、秋の文化祭出品などで、それぞれが日頃の練習の成果を発表しています。

何もわからないまま理事会に参加しているうちに、重大な問題が持ち上がっていることがわかりました。それは「19 年度からの文化祭は今までのようには出来ない」と。理由は「毎年文化祭で書道の展示をしている中央公民館の 1・2 研修室の会場設営費 4 万円は、来年度から経費節減のため文化協会から出せない」ということ。当初からの経緯を知る人の話では、「1・2 研修室の広さに合わせて大工さんに板枠を作ってもらい、それを黒幕で覆い会場作りをしてきた。毎年、組立て、解体して使用しており、その費用」だとか。

東温市書道連盟の会員数は 68 名、年会費は 350 円。内 200 円は文化協会へ上納、150 円が運営費 (@150×68=10,200)。とても会費だけでは賄えない。会場設営は自分達で出来ないものかと、今年、設営・解体とも役員が見学したが素人の手におえるものではないらしい。理事会でいろいろ意見が出た。

・文化祭参加はやめて小品のみのロビー展を 2 回にしては？

～文化祭の書道の灯を消すのは良くない～

・年会費を 1,000 円程に値上げすれば今まで通りにできる？

～退会する人が多数でるのでは～

・ロビー展で使用しているボードを使っては？

～条幅の長いものは展示できない～ など・・・

結局、継続することを前提に、経費のこと、他の所ではどのような工夫をしているかなど、もう一度代表者が協会役員と話し合いをすると言う事になりました。

文化協会の 17 年度の予算書を見ると文化祭の補助金として 1,800,000 円が東温市からでています。この決算内容を詳しく知りたいものです。余談になりますが、毎年行われている市民大学(重信と川内 1 年交代で開催)は、市から文化協会への委託事業として 1,300,000 円が計上されています。

今年は東温市から、映画「となり町戦争」・絵画「岡本太郎の壁画」・演劇「坊ちゃん劇場」など文化を発信することができましたが、地道な地域の文化活動も重要だと思います。自分達が努力することで、感動や喜びを得、人生を豊かに過ごす活動にも心くばりをして欲しいものです。(S・K)



副市長定数条例 制定議案を上程

東温市 (5日・定例) 会期を十九日までの十五日間と決め、一般会計補正予算三億七千九百九十九万円(累計百三十億三千二百十万円)前年度同期比15・8(増)や副市長定数条例(定数)制定など十七議案を上程。二〇〇五年一度一般・特別会計など決算九件を認定した。
主な補正は生活保護扶助費六千七百九十六万円、ブランド化に向けた市内生産者二組合への裸麦生産振興補助費十万円など。特別、企業商会計を含む補正総額は四億五千七百九十万円(累計二千七百一十一億円)前年度同期比10・4(増)。

BDFボイラー購入

市給食センター 151万円組み込む

東温市 (8日・定例) 二〇〇七年度稼働を目指し同市南方に建設中の市給食センター本体工事にバイオディーゼル燃料(BDF)専用ボイラー購入費千五百五十一万円などを組み込んだ変更請負契約(累計約七億二千万円)と、給食配送車四台購入契約(約千五百万円)を締結

する一議案を追加上程。「介護保険の負担軽減と『貸しはがし』等をなくすよう求める請願」など請願八件を委員会付託した。
専用ボイラーについて購入費について理事者は「半額補助を受けられる新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)との共同事業を申請していたが、基準に満たず不採択となったため本体工事に含めた」と説明。新たな給食センターからの配送時間は「最も遠い西谷、上林両小学校でも約十分で配送できる」と述べた。

大型公共事業 見直し進める

市長

東温市 (12日・定例) 大西佳子(無所属)佐藤寿兼(共産)竹村俊一(無所属)桂浦善吾(同)大西勉(同)白戸寧(同)佐伯強(共産)近藤千枝美(公明)丸山稔(同)東一夫(無所属)渡部伸二(同)の十一氏が一般質問。
二〇〇五年度に中学校一校で二年生全員が毛筆授業の一部を履修していなかった問題で、寺沢房和教育長は対象生徒に「本年度中に履修させる」と答弁した。同校は年間指導計画で二年生に六時間の毛筆授業を予定していたが、うち二時間を休暇中の宿題などで振り替えていた。
大型公共事業について高須賢功市長は「六月に策定した中期財政計画では、財政状況が年々硬直化する」と推計される。下水道事業を十年繰り延べするなど見直しを図りながら進める」と答弁。また松山市、伊予郡砥部町と連携した産業振興策を準備中とした。

議員定数削減 特別委検討へ

東温市 (19日・定例最終)

一般会計補正予算三億七千九百九十九万円(累計百三十億三千二百十万円)前年度同期比15・8(増)など二十議案を原案可決。請願八件のうち「最低保障年金制度の創設を求める請願」など五件を継続審査、「介護保険の負担軽減と『貸しはがし』等をなくすよう求める請願」など三件を不採択とした。
市監査委員に森貞章吾市議(公)志津川、新任IIを選任することに同意。市農業委員に野中明市議(公)北方、新任IIの推薦を決議した。
また「市議会議員定数等調査特別委員会」(八人)の委員長に玉乃井進市議、副委員長に伊藤隆志市議がそれぞれ就任した。定数は現在二四。二〇〇八年十一月の任期までに削減案を検討する。

2006年未記者ノート

10

都市に近く、豊かな自然に恵まれてはいるが、旬から、映画「となり町戦争」(渡辺謙作監督)「温」の名を冠して、ニュー温市に四月、劇団わらび座(秋田県仙北市)の常設劇場坊っちゃん劇場(見奈良)がオープン。さらに映画ロケや、芸術家の故岡本太郎氏が描いた巨大壁画の修復作業が完了するなど、東温市は芸術・芸能の話題が満載だった。

また、同市では五月中は話題を集め、誕生し、旬から、映画「となり町戦争」(渡辺謙作監督)「温」の名を冠して、ニュー温市に四月、劇団わらび座(秋田県仙北市)の常設劇場坊っちゃん劇場(見奈良)がオープン。さらに映画ロケや、芸術家の故岡本太郎氏が描いた巨大壁画の修復作業が完了するなど、東温市は芸術・芸能の話題が満載だった。

芸術・芸能話題相次ぐ

東温市

劇場活性化の起爆剤

ロケや壁画も全国発信

同劇場では百年を迎えた小説「坊っちゃん」を基にした個性的な劇を上演。同劇場によると、十一月末までに四万七千人余りが観劇し、うち三四割は県外客。劇場は地元ファンとの触れ合いを通じて地域とのきずなを強める一方、観光客誘引の起爆剤ともなった。

また、同市では五月中は話題を集め、誕生し、旬から、映画「となり町戦争」(渡辺謙作監督)「温」の名を冠して、ニュー温市に四月、劇団わらび座(秋田県仙北市)の常設劇場坊っちゃん劇場(見奈良)がオープン。さらに映画ロケや、芸術家の故岡本太郎氏が描いた巨大壁画の修復作業が完了するなど、東温市は芸術・芸能の話題が満載だった。

市の幹部らが「芸術文月に控える。わらび座のカル「坊っちゃん」東のまちづくりへ向け飛躍の年にしたい」と意気込み、四月、坊っちゃん劇場で「吾が輩は狸である」が、これに呼応して市商工

「となり町戦争」の制作発表会。五月十三日、東温市役所で行われた映画「となり町戦争」の制作発表会。左から、市役所職員、関係者、関係者、関係者。



5月13日、東温市役所で行われた映画「となり町戦争」の制作発表会

品開発に取り組み始めた。市は、ロケを記録したDVDや写真パネルを市内公共施設で公開▽東京にキャラバン隊を派遣して特産品をPR▽松山市、伊予郡砥部町との広域観光連携などを予定。ただ、これらの取り組みは「観光」の枠内にとどまっている感が否めない。

ロケを支援した「えひめフィルム・コミッション」の泉谷昇さん(三邑)は「東温市では地方都市であり得ないことが起きた」と〇六年を位置付ける。その上で「一過性で終わるかどうかは市や市民次第。市は明確な戦略を提示し、市民はスクリーンに映し出されるふるさとの風景を見て、地域の魅力を再発見する機会にしてほしい」と、市民の起に期待している。(社会部・本橋隆太)

2006年10月21日(土) 環境新聞

プラごみ分別

松山・東温・松前A判定

再調査で 大幅改善 受け入れ拒否回避

リサイクル業界団体でつくる日本容器包装リサイクル協会(東京)の二〇〇六年度プラスチック製容器包装ごみ品質調査で、抜本的改善を要するD判定だった松山市と東温市、伊予郡松前町の再調査の結果が二十日までにまとまった。純度を示す容器包装比率は、三市町とも90%以上のA判定に改善。同協会は「いずれも総合的改善が見られると判断している」と話している。

三市町は五―七月の本年度調査で前年度に続きD判定を受け、同協会に改善計画を提出。再調査を求められ、住民に分別の徹底を呼び掛けるなどしていた。協会側から、再調査で改善が見られな

ければ来年度の受け入れ拒否の可能性もあると指摘されていた。再調査は今年十一月―十二月の間に、広島リサイクルセンター久井工場(広島県三原市)で三市町それぞれの職員が立ち

会い実施。容器包装比率や禁忌品(医療廃棄物、危険品)の混入などを調べた。容器包装比率は、東温市が96・98%(五月調査比15・82%改善)、松前町が97・20%(同21・61

改善)。松山市は、七月の調査で77・62%の松山容器分、84・65%の南海産業分ともに90%を上回った。禁忌品判定は、松前町で危険物のガスライターと交換用かみそり刃が一個ずつ混入、松山市の南海産業分にも危険物が混入してD。東温市と松山市の松山容器分は混入がなくA判定だった。



阿部 司講演会に参加して

私たちは、何を得て、何を失っているのか

10月22日、松山のコミセン会議室は熱気に包まれていた。阿部司氏の講演会は予想を上回る来場者で、立ち見の人も大勢いた。

阿部氏は、無添加食品、自然海塩の開発・推進に携わり、有機農業JAS判定員でもあられるが、元は食品添加物のトップセールスマンだった人である。食品添加物の現場での経験をもとに、現在全国を講演されている。『食品の裏側』（東洋経済新報社）の著作もある。

阿部氏の前に置かれたテーブルに、白い粉の入った小瓶がたくさん並んでいた。食品添加物である。阿部氏は、この粉だけで、あらゆる味をまるでマジシャンのように作り出した。とんこつスープ、お吸い物、ジュース…。客席までまわってきたその「お吸い物」は、まさしく「N園のお吸い物」のにおいがした。化学実験のように作られていく様子を見て、気味が悪いとともに、これら添加物で作られたものは、本当に栄養もなにもなく、食品とはいえないと改めて思った。

問題なのは、私たちが思っている以上に、一つの加工食品に多くの添加物が使われているということだ。現在の食品衛生法では、いくつかの添加物を一括して表示する「一括表示」というシステムがとられている。同じ目的のために使われるのであれば、複数の物質を使っても「香料」・「乳化剤」など一括して表示したのでかまわないというのである。阿部司著『食品の裏側』より抜粋してみる。『たとえば食品の変質・変色を防ぐ「PH調整剤」。これは、ひとつの物質名ではありません。「ク

エン酸ナトリウム」「酢酸ナトリウム」「フマル酸ナトリウム」「ポリリン酸ナトリウム」といった添加物の「集合体」なのです。4～5種類は使われているのが普通です。それぐらい入れないと、PHの調整効果が出ないのです。化学記号のカタカナが4～5種類もずらずら並んでいたのでは「添加物を大量に使っている」という悪印象を持たれてしまいますが、一括表示なら「PH調整剤」とだけ書けばいい。少なく見せかけられます。』

…なんということか。これは知らなかったのでとても驚いた。PH調整剤の他、「イーストフード」「かんすい」「香料」「乳化財」など14種類の表示がこの一括表示にあたる。記載よりも実際はその4～5倍の物質が使われていると思うとぞっとする。

そしてさらに、表示免除のシステムもあることを知った。表示免除とは、以下の5つの場合には添加物を表示しなくてもいいというもの。

- ① キャリーオーバー
- ② 加工助剤
- ③ バラ売りおよび店内で製造・販売するもの
- ④ パッケージが小さいもの
- ⑤ 栄養補助剤

詳しい説明は『食品の裏側』を読まればわかるので省くが、例えば「焼肉のタレ」などの加工食品を再加工した製品、ベーカリーショップのパン、小さな容器のコーヒーフレッシュ、納豆についてくるタレなどがこれに該当する。

私たちは毎日の生活の中で、意識しないうちにおびただしい数の食品添加物を口にしてしまっている。食品添加物がこわい

のは、その毒性だけではない。人工的な濃厚なうまみに舌が慣れてしまい、食品本来の味がわからなくなってしまう。そして何よりこわいのは、食べ物が簡単に手に入り、料理してくれるありがたみ、食べれるありがたみを知らない子どもが育ってしまうことである。

阿部氏は本の中でこう書いている。『食べ物のありがたみがわからない子どもは、命のありがたみもわかりません。人の命の重さもわからない。だから、簡単に人を傷つける子どもになってしまうのではないのでしょうか。「食べ物を大切にすることは、絶対に人をあやめない』

加工食品を使わず手作りするのは、実際手間隙かかり、大変である。私の1日の食事の支度を考えてみても、朝・弁当と朝食を用意するのに大急ぎで作っても1時間以上はかかり、昼は私ひとりのときは簡単にすますとしても、夕食には短くて1時間、ちょっと手の込んだものを作る日は2時間かかるのである。家族のいる土・日はもう悲惨だ。こんな生活を毎日続けていると根気のない私はときどきお手軽加工食品に手を出す。すると、「これはお母さんがつくったものじゃないね」とすぐ鋭い指摘が来るのだ。これまでは、あつかましいと思っていたが、この鋭い味覚が育ったことを喜ぶことにしよう。これからも忙しいとき、体調の悪いときなどはやっぱり加工食品に助けてもらおうだろう。現代の生活で添加物なしの食生活は現実的ではない。でも知って使うのとそうでないのとは、やはり大きく違ってくると思う。そして、同じ思いの人は大勢いるということを講演会のあの参加者の多さが何よりも語っているのである。

(E. K)



水辺を歩く

松山で活動している仲間と、ここの所、重信川周辺を楽しむ機会がありました。

以前から「泉めぐり」をしたいと言われていました。マムシが出なくなる時期が来たので、11月20日、この日都合の付くメンバー4人で出かけました。登山をする人、ウォーキング慣れしている人、ここ10か月で約20kgダイエットに成功し、歩くことが苦痛でなくなった人、案内役の私、体力的に様々なメンバーですが、今日はのんびり楽しむペースで「龍沢泉」からスタートです。

公園とのつながり感覚で整備されているので、湧水前の写真と見比べて「整備し過ぎかな?」「農業用水として利用されているのなら管理しやすい整備も仕方無いのかな?」「こんなにきれいな水を利用したら美味しいお米が出来そう?」との意見が出ました。クヌギのどんぐりを拾いつつ「三ヶ村泉」へ。

途中にある公衆トイレは雨水利用された「エコトイレ」であるとか高速道路の側道をおしゃべりをしながらウォーキング。「三ヶ村泉」の裏側に建設道具が置かれていて、「事業検討委員会」で決まった整備が始まるのでしょうか?と思いつつ泉へ向かいました。木の葉がハラハラと舞い落ちいい雰囲気。いつ来ても違った姿を見せてくれる泉です。前日、雨だったので足元を注意しながら下へ。4人共この空気感の違いに思わず深呼吸。かすかなせせらぎの音・鳥の鳴き声・枯れ葉の落ちる音、冬枯れの泉を堪能出来ました。「整備の予定があるのなら今の環境を維持した工事をしてほしい」と皆の気持ちが一一致。

後ろ髪を引かれながら「柳原泉」へ。重信川沿いをウォーキング。「柳原泉」は久しぶり。管理されている泉ですが、木々に泉が覆われていて、しっとりした空気感が包んでくれました。ベンチで一休みを

していると、正午のメロディーが流れてきたので、石鎚山を背に重信川沿いを、いい空気を味わいながら「龍沢泉」までウォーキング。約2時間半の泉を巡りながらのウォーキングを楽しみ、約8500歩も歩いていました。月曜日で、緑化公園が休みで入れませんでした。中を歩けば一万歩行けたかも。「今度、ウォーキング仲間とこのコースを歩きます」と嬉しい感想をいただきました。お疲れ様でした。

この日の参加者で登山を楽しむ人が、「水の元へ飲み水を汲みに行かない」と誘ってくれたので、4日後、雨上がりの晴天に恵まれペットボトルを持って上林へ。皿ヶ峰のお膝元に住んでいながら、私にとっては初めて訪れる場所です。夏場「そうめん流し」で賑わっている所に、皿ヶ峰の広葉樹林を通過して来た恵みの水がこんこんと流れ出ていて、有り難く頂いてきました。コーヒーがまろやかでおいしいそうです。私は、お茶や紅茶の出が良く柔らかい味に感じ、楽しんでいきます。せっかくここまで来たのだからと「風穴」まで車を走らせてくれました。駐車場で車を降りると、マイナスイオンたっぷりの冷たい空気は頬をキュッとひき締め、体調不良の私の体に元気を与えてくれました。「風穴」の側まで行くと、より冷たい空気がフーッと流れて来て今年初の冬を体感した気がしました。夏になるとブルーポピーが咲くそうです。ドウザンツツジ・クマガイソウ等ここから皿ヶ峰に登って行くと楽しめるそうですが、心ない人が持ち帰ってずいぶん減って来たそうで、さみしい話しです。

この林道もまもなく冬籠もりに入り、水汲みも今年最後になるかも知れないこの日に、誘ってくれた友人に感謝。

A. M



怒り、哀しみ、呆れ果てるニュースばかりが目立った 2006 年も終わろうとしています。

11 月 3 日、小さなおばあさん猫と、やんちゃで臆病な大型犬と共に、五年振りに中予に戻って来ました。我が家にとって 15 回目の引越しです。知人には“引越のベテラン”と言われますが、前回に比べ、気力、体力、記憶力の著しい低下に、五年という歳月の重みを痛感しています。

転居に伴う手続きも、近頃本人確認が必要なものが多く、本人なら一度で済むことも、夫の代理の私は何度も足を運ばなければなりません。運転免許証の住所変更は、夫自身が出向くことができる休日は、所轄の交番に行く様指示されましたが、どこも不在ばかりで、ようやく変更の手続きが出来たのは三週間も後のことでした。歳出削減の為に公務員数の純減が提唱されていますが、本人確認が必要な手続は、休日でも出来る様にさせていただきたいし、交番には常駐していただきたいと痛感したことでした。

膝に故障を抱える私は主治医の勧めもあって、出来るだけ歩いて生活していますが、整備されていない歩道が多いことが悩みの種です。高速道路より、生活道の整備を切望します。歩きやすい、歩きたくなる街並を創り出すことは、罹患率の低下にも、障害を持つ人の行動範囲の広がりにも役立つと信じます。

以前から、“松山市のゴミ分別は大変”とは聞いていましたが、かなり手強いものです。先ず煩雑なのは、“紙ゴミ”の分別です。リサイクル出来る紙と出来ない紙の区別に“ごみ分別 はやわかり帳”を片手に悪戦苦闘が続いています。おまけにプラスチックゴミは、マヨネーズ、わさび、歯磨きなどのチューブや油のボトルなども中をきれいに洗って出す様に書いてあります。米のとき汁さえ河川を汚染するというので、無洗米が増えている昨今、釈然としない毎日です。それに西条市の水まで当てにし、雨水タンクや食器洗い機に補助を出す程、水が不足している松山市なのに、と矛盾も感じます。思わず勘違いしてしまったのは、“粗大”ゴミです。粗大という言葉から、家具などの大型の物を考えていたのですが、電気コード、コンパクト、時計など小さな物も“粗大”ゴミなのです。“個別引き取りゴミ”とでも、名称を変更した方が分かりやすいのにと感じてしまいました。

これほどリサイクルに熱心な松山市なら、生ゴミの堆肥化にもっと情熱を注

いで欲しいとも思います。勿論、コンポスターや生ゴミ処理機に補助が出る様ですが、それぞれの事情で、設置できなかつたり、堆肥が不要な家庭もあると思うのです。佐賀ではNPO 団体が中心となって、登録家庭の生ゴミを収集し、堆肥化しているそうです。その堆肥の質の良さは、佐賀大学の研究室によって認められていると言います。

それにしても、同じ愛媛県内で、市によってあまりに違う、ゴミ分別には閉口しています。

転居後、臆病な大型犬の大五郎は、初めての引越で少々情緒不安定でしたが、おばあさん猫のリリは、引越しも三度目ともなると、平然と家中を探検してまわり、最近椅子に跳び乗るのがやっとなつたのに、流し台に身軽に上り、先輩の余裕を見せていました。そんなリリが12月14日、17歳10ヶ月の一生を終えました。引越してから1ヶ月と11日めのことでした。2.5kgの小さな猫でしたが、いなくなると急に家が徒広く感じられてなりません。今は勿忘草の模様の白い小さな壺に納って八年前に逝った柴犬の五郎と並んでいます。火葬した翌日は冷たい雨が、いつの間にか霰に変わっていました。今も“恵子さん！！御飯は？”と催促するリリの声が聞こえます。(K・O)

お知らせ

- ・ 1月9日(火) 午前11:00～ 総会及び新年会 林宅にて
総会終了後、一品持ちよりの新年会を行います。是非ご参加ください。
- ・ 読者の声・投稿などお待ちしております。

くらしの学習会では、随時会員を募集しています。

活動会員 2000円/年 購読会員 1000円/年

振込先口座番号(郵便局) くらしの学習会 01610-5-21026

問い合わせ先 TEL/FAX 089-964-6956 (林)

E-mail: kt-hayashi@nifty.com

編集後記

年々、1年が過ぎるのが速くなっていくように感じています。年末もお見舞いに行つて来ました。50人乗り程度の小さい飛行機を使っている松山-名古屋便は最近満席のことが多いので一苦勞です。良いお年をお迎え下さい。(T・H)